



日本聖公会
大阪教区総務局
〒545-0053
大阪市阿倍野区
松崎町2-1-8
TEL 06-6621-2179
FAX 06-6621-3097
発行責任者
総務局長 司祭 内田 望

〈HP〉 <http://www.nskk.org/osaka/index.htm> 〈e-mail〉 office.osaka@nsk.org

第475号 2020年6月28日発行

「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい。わたしの父の家には住む所がたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであろうか。」(ヨハネによる福音書14章1-2節)

自粛要請も解除され、ようやくコロナウィルスの騒ぎが落ち着きを見せてきました。これまでの自粛期間を通じて、当たり前だと思っていた、外に出かける、遊ぶ、病院に行くなどの行動が、実は大切なものであったのだということ、多くの人が改めて感じたように思います。

今回の騒ぎで、教会もまた、多くの当たり前だけれど、大切なことが浮かんだと思います。日曜日に礼拝に行く、聖餐の恵みに与る、信徒一同で愛餐会をする。当たり前ですが、それがなくなる不自由さ、そしてそれらが、とてもかけがえのないものであるということ、皆さんも改めて感じたことと思います。

この騒ぎの最中、連日伝え

られたニュースでは、病院のご遺体安置所があふれ、病院外の安置所に運搬する冷凍車が待機している町角、ご遺体や感染者を尊厳を持って取扱うことができなくなった国、死の床にある時に、お別れをすることすらできない家族、最期に顔を見ることができず、葬儀をもって慰めを得ることなく見送らなければいけない遺族、そのような光景が報道



当たり前前ものを 思い出して

司祭 ペテロ 金山 将司

されました。私はそのような痛ましいニュースを見るたび司祭という一人の見送るものとして死とは、葬儀とは何であるのかを考えさせられました。

もう10年ほど前になると思いますが、ベックリンという画家の描いた「死の島」という絵画に出会いました。この題名を見ると骸骨が鎌を持って、などのおどろおどろしい作品をイメージをされるかもしれませんが、ベックリンの描

いた死の島は静謐さ、安寧を感じさせる、仄暗い、埋葬の島を描いた落ち着いた作品です。私はこの作品を最初に見たときは暗く陰鬱な作品だとしか感じなかったのですが、最近になって見直すと、ああ、これが一つの死の理想だなと印象が変わりました。死というものは本来静謐さに溢れ、神が用意なさる場所へと運ばれる安寧の時でもある、とい

うことを改めて絵から感じたのです。死の本来のあり方を体現しているどこか夢のような「死」が、この絵には描かれているようで、今の世にあつてはその静謐さが必要に思えたのです。

今はコロナウィルスの騒ぎで、死というものがひどく慌ただしいものになってしまいました。そのような中で私達クリスチャンはいつも死に備えていなければならないよう

に感じます。そのように言うとも構えてしまうかもしれませんが、決して難しいことではありません。それはただイエス様がおっしゃった、「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい。わたしの父の家には住む所がたくさんある。もしなければ、あなたがたのために場所を用意しに行くと言ったであろうか。」この言葉を信じ、今再び教会に与えられた礼拝できる恵み、祈る恵みをしっかりと大切にしつつ、終わりの日に天上の住処へと向かう船に乗るまで、しっかりと生きるということなのです。死が近づくからこそ、生というものが輝く。私たちクリスチャンとしての輝きもまた同じです。その命をしっかりと大切にしつつ日々を共に歩んで参りましょう。

(かなやま・まさし 恵我之 莊聖マタイ教会牧師)

「死の島」

1880年作
アルノルト・ベックリン
ライプチヒ造形美術館所蔵

私が宣教の5指標を身近に感じるようになったのは、2012年8月に開催された日本聖公会宣教協議会の基調講演で西原廉太司祭が紹介してくださったときでした。この講演の中で西原司祭は宣教者の石田学氏の言葉を用いて、以下のように話をされました。

「昨今の日本のプロテスタント諸教会では、教会の共同体性の回復が重要視されている、ということなのです。(中略)教会は、残念ながら、教会外共同体に優先順位を譲り渡してしまった、という認識です。学校共同体に負け、スポーツクラブにも負け、(以下略)」(同協議会報告書より引用)

この課題を乗り越えるために西原司祭が紹介してくださったのが、いわゆる宣教の5指標であり、そこから生まれ

新聖職リレーエッセー ②



「共同体性の回復」とは!?

司祭 フランチェスコ 成岡 宏晃

たのが教会の5要素でした。教会の共同体性と聞いて、これまた西原司祭の十八番である、「鳥の巣型」の教会論を思い出すのです。

鳥の巣(教会)というのは、小さな枝や葉っぱをはじめ、道端に落ちていく多種多様な素材(信徒・教役者)が(神によって)寄り集められ、その素材が鳥の粘液(三位一体の神)によって繋ぎ合わされ、いのちを育む共同体(神の愛を分かち合う器)へと創り上げられていきま

聖公会共同体は、信仰の規範である祈禱書、つまり神のみ言葉、神への祈りを生活の中心に据えつつ、多様性を尊重する「旅する共同体」、「対話し、解釈し続ける共同体」と言われています。

「つながっている」わたしたち

司祭 テモテ 内田 望

16世紀、日本の教会は迫害の歴史を乗り越えてきました。潜伏キリシタンとして長期間、にもかかわらず、わたしたちの教会を振り返ってみると、知らず知らずのうちに、小さな声に心を砕くゆとりを失って、ある特定の大きな声によって押さえつけられる雰囲気へと安易に流されてしまっているシーンが少なくないような気がします。

「教会の外へ何を発信するか」ということよりも、「私たちの教会はどのような共同体であるか」ということを丁寧に振り返りつつ、教会の共同体性の回復について今まで以上に心を砕くことが私たちの目の下の課題なのかもしれません。(なるおか・ひろあき)

プール学院中学校・高等学校チャプレン、大阪城南キリスト教会牧師

*次回は、ジョージ林正樹司祭です。

教会で行う礼拝を待ち続けてきたのでありました。彼ら再び礼拝に与ったときの喜びは、いかばかりであったことか。歓喜の涙を流したのではと思います。どんな苦しみであっても、永遠に続くことはありません。天の父は、私たちを、また、私たちの教会を決して見捨てることなく、教会に集まれる日、喜びの日を準備してくださいました。

ただ、まだまだ新型コロナウイルス感染は終息したわけではありませぬので、感染に気を付けておられる方、基礎疾患をお持ちの方は、無理をしないで自宅で日曜日の礼拝を守ることにいたしましょう。自粛、自粛で疲れているとき、体調のすぐれないときは、心の中で「主の祈り」を唱えるだけで充分です。「主の祈り」をはじめ、教会の祈りの主語は「わたしたち」です。この「わたしたち」の中に目に見えない信仰の仲間とのつながりを感じつつ祈りましょう。

あとは、教会で祈っている信仰の仲間任せ、大船に乗った気持ちでお休み下さい。離れていても心はひとつ。体は聖堂に行くことができなくても、祈りのうちに霊的に一致していれば、ご自宅はもはや聖堂の一部になります。そして、教会で献げている聖餐式とつながっていくことになり。いつもそんな一致を強く意識しながらご自宅で礼拝を献げることになりました。

教会に集まって一緒に祈ることを賛美できなくても、ご家庭でお祈りを献げてくださっておられる時、聖書を読んでもおられる時、復活のイエスさまは「時間と空間の限界を超えて」皆さまに寄り添っておられます。集まらなくてもつながっている、教会の目に見えないつながりをいっそう強く意識できるようになつたことを感謝したいと思います。(うちだ・のぞむ 西宮聖ペテロ教会牧師、堺聖テモテ教会管理牧師)

夏のキャンプなどの中止のお知らせ



京都教区教育部・大阪教区生涯学習委員会は、キャンプなど青少年向けのプログラムを毎年おこなってきま

た。今年も、新型コロナウイルス

感染症の感染拡大防止のため、春のJ'sキャンプやキッズフェスティバルを中止いたしました。

夏のプログラムのためには、5月から準備を始めている必要がありますが、感染症の状況の見通しが立たないため、準備を始めることができないです。そのため、今年の夏のプログラムは中止することを、先日の合同会議で決定いたしました。

大変残念なことではありますが、どうかご理解いただきませうようお願い申し上げます。代替となるプログラム、例えば、自宅でできることについてアイデアも出し合い、検討をしてみました。そ

らは新しい取り組みであっても、キャンプなどで体験することの代わりにはなりえないということに気づきました。わたしたちは、これらのプログラムの中で、久しぶりに友だちに再会すること。初めて出会った人と一緒に一つのことに取り組むこと。顔を合

わせて一緒に食事をする。大きな声で歌ったり、笑いあうこと。これらのことを、体験しながら、お互いの関係が深まり、心の距離が縮まっていくことなど、多くのことを感じあってきました。そして

それらの出来事には、すべて神さまが用意してくださっていること、イエスさまがひとりひとりを大切にされたことの意味を、友だちとの出会いを通して知ってきました。

中止の代わりとなるプログラムについて話し合うつもりが、実際にはこれまでにおこなってきた青少年プログラムの、ひとりひとりの新しい出会いがあつてこそその取り組みであることを感じるようになりました。

安全にプログラムをおこなえる状況となれば、活動を再開できるように準備を整えつつ、これからも、青少年プログラムのさまざまな可能性を探っていききたいと思っています。

キャンプやキッズフェスティバルで、子どもたちが笑顔で再会できる日が早くやってくるように、それぞれの場でお祈りください。
(京都教区教育部司祭鈴木恵一・大阪教区生涯学習委員会司祭千松清美)



どのような新しい扉がひらき、物語が始まるのでしょうか。

角野栄子さんという児童文学者がおられます。2018年、角野英子さんは、児童文学のノーベル賞といわれる国際アンデルセン賞を受賞されました。

彼女は1989年宮崎駿監督によってアニメ映画化されて、大ヒットした「魔女の宅急便」の原作者でもあります。その角野英子さんの「魔女

からの手紙」という絵本の中に、「おわりのばあさんのせりふ」というのがあります。「目に涙をあんなにためて

この世のおわりって顔してたよ この扉はね、おわりからあくんよ。・・・」この「おわりのばあさん」の手紙には、絵本の物語は読み終わったら終わりではなく、

辛いや悲しいことが起こると私たちは、もうこの世の終わりという顔をしてしま

終わった瞬間から読んだ人の物語となり、読んだ人の新たな扉がまたあくんだよという角野さん自身の思いがこもっています。

どのように新しい扉がひらき、物語が始まるのか、聖霊の導きを祈りつつ、共に考えて行きましょう。

(主教アンデレ)

第124 (臨時) 教区会

日時：2020年7月19日 (日)

午後2時～3時半

会場：主教座聖堂・川口基督教会

教区の動き

常置委員会報告

5月20日(第8回定例)

I. 主教報告 及び諸報告

*奥村司祭が赴任している田辺聖公会の礼拝堂新築工事が5月に始まった。
*イースター式典社からマスクの寄付があり、各教会に配布する。
*教区事務所の勤務体制は6月も交代制とする。

II. 協議事項

*夏の小学生とJ'sキャンプは中止となった。
*石橋聖トマス教会の法人格教区一元化について審議するため、臨時教区会を開催する。日時は7月19日(日) 14時〜15時30分 川口基督教会にて。
*新型コロナウイルス関連で、主日礼拝を6月から十分な準備が出来た教会から再開可能とする。但しその他の集会等はまだ行わない。
*5月31日(日)の「海外伝道の日」の信施先を「移住者と連帯する全国ネットワーク(移住連)」とする。生活に困窮する移民、難民の方への支援のため。

教会・諸施設の動き

川口基督教会では、「家庭での祈り」式文を全信徒に配布、ことに青少年部はコロナウイルスのせいで長らく家にこもっている子どものため、励ましの手紙と手作り布マスク、お菓子(長崎名産クルスク煎餅)を配布した。
大阪城南キリスト教会 ホームページをリニューアルしました。https://ohnan1894.wixsite.com/fojoutchou(現時点では「検索」では見つけられ

祝 受 洗

大阪城南キリスト教会
アンジェラ 山本 莉子
(5月31日)

祝 初 陪 餐

大阪城南キリスト教会
アンジェラ 山本 莉子
(5月31日)

祝 受 按

堺聖テモテ教会
エステル 足田 汎子
(5月31日)

魂の平安を 祈ります

石橋聖トマス教会
ナタナエル 小高 忠男
(3月25日) 88歳
尼崎聖ステパノ教会
パウロ 中西久忍夫
(5月17日) 89歳
大阪聖アンデレ教会
マリア 田中 溢恵
(5月19日) 94歳
大阪聖愛教会
テモテ 中島 久雄
(5月22日) 88歳
高槻聖マリヤ教会
モニカ 猿橋 正子
(5月23日) 86歳
川口基督教会
(6月9日) 上村 敏彦 94歳

教区関係教役者 逝去者記念聖餐式

7月8日(水) 午前10時30分〜

◇説教者 司祭 マルチン 韓相敦

- 司 祭 ウォルター・J・エドモンズ(1889.7.1 英)
- 伝道師 野村 志津 (1997.7.1)
- 宣教師 エリザベス・メータ・ソフィー・ヒューボルト (1934.7.5 英)
- 伝道師 フィベ 山上 操 (2014.7.9)
- 主 教 パウロ 久保淵 豊彦 (2006.7.12)
- 主 教 アーサー・ウィリアム・プール (1885.7.14 英)
- 宣教師 オクタビア・ジュリアス (1942.7.15 英)
- 宣教師 エミリー・サンドル・フォックス (1942.7.20 英)
- 司 祭 ヨハネ 木川田 正毅 (1990.7.20)
- 司 祭 堀江 議作 (1928.7.21)
- 執 事 永田 保治郎 (1941.7.21)
- 司 祭 イサク 木川田 満 (2018.7.22)
- 伝道師 中村 貞子 (1953.7.23)
- 宣教師 エセル・アグネス・カーライル(1957.7.23 英)
- 司 祭 西田 弥吉 (1945.7.24)
- 宣教師 ジェーン・アン・スタベリー (1963.7.24 英)
- 司 祭 サムエル 堀江 光児 (1990.7.25)
- 主 教 マルコ 小池 俊男 (2011.7.28)
- 宣教師 ロレッタ・レオナルド・ショウ (1940.7.29 カナダ)

教役者逝去記念聖餐式は、毎月第2水曜日午前10時30分から、主教座聖堂(川口基督教会)で行われます。

ご関係の有無にかかわらず、どうぞ自由にご参加ください。

3月から大阪教区関係教役者逝去記念聖餐式は中止されていましたが、7月から再開いたします。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

